

日ごろ、市政各般にわたり、ご支援と協力を賜り、深く感謝申し上げます。

また、この度は「市長への手紙」を頂き、誠にありがとうございました。

市としては、福島第一原子力発電所の廃炉が安全かつ確実に進められることが、住民の安全の観点はもとより、本市の復興を成し遂げるうえでも不可欠なものと捉えております。

S様のご意見にあるように、多くの方が原発事故の記憶を風化させずに、廃炉について正しく理解することも重要と思います。

そのためには、国や東京電力による住民に寄り添った丁寧な説明が不可欠であることは言うまでもありません。

福島第一原子力発電所の事故により、甚大な被害を受けた自治体として、廃炉作業が完了するまで、県や関係自治体とともに確認、意見してまいります。

また、国見山の状況ですが、先の東日本大震災と原子力発電所事故により緊急時避難準備区域及び居住制限区域に指定され、立ち入りが制限されておりました。

更に、令和元年東日本台風により林道が被害を受けたため、現在復旧工事を行っているところであります。ご指摘いただいた通行禁止の林道につきましては、起終点に看板を設置し、注意を喚起いたします。

市では、東京大学の児玉龍彦名誉教授が委員長を務める南相馬市環境回復推進委員会から放射線に関するご意見をいただきながら、現在、国見山の整備を進めております。令和3～4年度で国見山林道の災害復旧を行い、令和5年度には国見山森林公園内の朽ちた防護柵や多目的広場・東屋・階段等を整備し、令和6年度にリニューアルして再開する予定です。

線量につきましては、平成30年10月から令和2年1月にかけて里山再生モデル事業により国見山森林公園内の遊歩道や多目的広場等の除染を行い、その結果空間線量は低減している状況です。

環境省試算による個人被ばく線量は、1回の山頂登山に3時間要した場合0.0018mSvとなり、年間12回利用した場合でも0.02mSvとなり人体への影響は小さいとのことでした。

公園整備工事前後には、里山再生モデル事業で線量測定したように放射線量の調査を行うと共に、3つの登山道についても放射線量の確認を行う予定です。国見山周辺の放射線量の状況を知らせる看板の設置につきましては、各登山道の入り口に設置し周知することを検討してまいりたいと考えております。

最後に、処理水の海洋放出についてですが、市では、令和4年9月7日に経済産業副大臣兼原子力災害現地対策本部長が来市された際に、ALPS処理水の海洋放出について国民の理解が進んでいないことを踏まえ「国民への分かりやすい説明と理解を得ること。」などの要望書を手渡したところですが、市民への説明会の開催についても国へ要望してまいります。

廃炉が安全かつ確実に完了し、未来を担う子どもたちの世代が原子力災害を心配せずに済む世の中になることを願ってやみません。

この度は、貴重なご意見、誠にありがとうございました。

令和4年12月15日

s 様

南相馬市長 門馬和夫